

和所 泰史 WASHO Yasushi

わしょ やすし

職位	専任准教授
取得学位	博士(スポーツ科学)(令和5年1月)中京大学
最終学歴	中京大学大学院体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)単位取得満期退学
専門分野	スポーツ史、スポーツ哲学
主な担当科目	体育原理、スポーツ文化史、スポーツ文化論、スポーツ人類学、水泳、専門演習
研究テーマ	・近代オリンピック史と紛争の平和的解決 ・戦後日本の国際スポーツ復帰 ・スポーツにおけるフェアプレイの倫理的価値
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、東海体育学会、日本体育・スポーツ史学会、スポーツ史学会、日本体育・スポーツ哲学会、日本スポーツ人類学会、POW研究会、JOA、なにわのスポーツ研究会

教育・研究内容

【教育】

体育やスポーツの歴史を学び、現在を正しく理解し将来を賢明に洞察能力を身につけるようにしています。また、優れた指導者、研究者になるために学び続ける姿勢を持つことを心がけるように指導しています。

【研究】

近代オリンピックの理想は「平和な社会の推進を目指すためにスポーツを役立てることである」とされていますが、これまでのオリンピック・ムーブメントと戦争は国の政治的手段としてもかかわりあってきました。当時の史料や証言から、日本がなぜ戦後のオリンピック・ムーブメントから除外されたか、また、どのように復帰したかを研究しています。

著書

- | | | | |
|---|------------------------|---------|---------|
| 1 | なにわのスポーツ物語－廃藩置県から140年－ | 平成27年6月 | 丸善出版社 |
| 2 | 日本代表 オリンピック全選手・役員名鑑 | 平成30年5月 | 出版文化社 |
| 3 | 体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック | 令和5年2月 | 大修館書店 |
| 4 | 大学生のための体育原理 | 令和7年4月 | ビジネス実用社 |

学術論文

- | | | | |
|---|--|----------|--------------------|
| 1 | 1948年オリンピック・ロンドン大会への日本不参加問題に関する日本国内における新聞、雑誌の報道(査読付) | 平成22年10月 | 『体育史研究』第27号 |
| 2 | 戦後日本の国際スポーツ界復帰に関する永井松三の役割(査読付) | 平成25年12月 | 『スポーツ健康科学研究』第35号 |
| 3 | 日本選手団の夏季オリンピック・メダリストにみる所属都道府県別特徴－大阪府所属選手に着目して－(査読付) | 平成27年3月 | 『中京大学体育学論叢』第55巻第1号 |
| 4 | 大学生の体罰・暴力的指導の捉え方に関する男女差(査読付) | 平成29年11月 | 『環太平洋大学教職教育研究』第1号 |
| 5 | 戦後日本の国際オリンピック大会復帰過程に関する一考察－1946年～1947年の大日本体育会の動向に着目して－(査読付) | 平成31年3月 | 『スポーツ史研究』第32号 |
| 6 | 環太平洋大学体育学部における中・高保健体育科教員養成に向けた「キャリア形成」に関する実践(1)
－2019年度前期における実践の現状と課題－(査読付) | 令和2年2月 | 『環太平洋大学研究紀要』15号 |
| 7 | 1948年IOCロンドン総会の日本代表出席問題に関する歴史的研究(査読付) | 令和2年3月 | 『体育史研究』第37号 |
| 8 | 教員志望の大学生におけるハンドボール授業の展開について－体育学科3年生を対象として－(査読付) | 令和3年3月 | 『環太平洋大学研究紀要』18号 |
| 9 | 本学体育学科学生の東京2020 大会開催に関する意識調査(査読付) | 令和4年3月 | 『環太平洋大学研究紀要』20号 |

10	戦前の静岡県西部地域の水泳指導に関する史的研究(Ⅰ):浜松市の中等学校に着目して(査読付)	令和5年9月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第8巻第1号
11	戦後日本のオリンピック・ムーブメント復帰過程に関する国内の新聞報道(査読付)	令和7年2月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第9巻第2号

資料

1	戦後日本のNOCの存在とオリンピック・ムーブメント復帰に関する研究 －IOC総会および1948年オリンピック大会組織委員会議事録の検討を中心に－ (査読付)	令和4年3月	『スポーツ史研究』第35号
2	プロサッカーの会場外イベント参加者による満足度調査	令和5年2月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第7巻第2号

実践報告

1	警察による学生向け薬物対策講座実施の試み	令和7年2月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第9巻第2号
---	----------------------	--------	-------------------------

研究報告書

1	戦後の「なにわのスポーツ」を振り返る －2019年4月までの出来事100選から－	平成30年7月	なにわのスポーツ研究会
2	戦後日本の国際スポーツ界復帰に関するダグラス・マッカーサーの役割について	平成31年4月	笹川スポーツ財団『2018年度笹川スポーツ研究助成研究成果報告書』
3	なにわの「球技スポーツ」を振り返る	令和3年7月	なにわのスポーツ研究会
4	なにわの「陸上・水上・氷上・雪上競技」を振り返る	令和5年7月	なにわのスポーツ研究会

学会発表

1	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本不参加問題に関する歴史的研究 －GHQ史料・官報の検討を中心に－	平成20年5月	日本体育学会体育史専門分科会 2008年春の定例研究集会 (於びわこ成蹊スポーツ大学)
2	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本不参加問題に関する当時の新聞・雑誌の検討(フィールファイン若手学生研究コンペティション)	平成20年9月	日本体育学会第59回大会 (於早稲田大学)
3	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本不参加問題に関する当時の新聞・雑誌の検討	平成20年9月	日本体育学会第59回大会 (於早稲田大学)
4	日本体育協会会議録にみられる1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本不参加問題	平成21年5月	日本体育学会体育史専門分科会 2009年春の定例研究集会(於皇學館大学)
5	戦後日本のオリンピック復帰に関するマッカーサーの見解 －John Jewett Garlandとの書簡から－	平成21年8月	日本体育学会第60回大会 (於広島大学)
6	戦後日本のIOC総会出席に関するマッカーサーの見解 －IOC副会長Avery Brundageとの書簡から－	平成22年8月	日本体育学会第61回大会 (於中京大学)
7	戦後日本のオリンピック復帰に関するIOCの見解 －1945～1952年のIOC議事録の検討を通して－	平成23年11月	スポーツ史学会第25回大会 (於東海大学)
8	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本の招待に関する見解－1948年第14回オリンピック・ロンドン大会組織委員会の議事録の検討を通して－	平成24年8月	日本体育学会第63回大会 (於東海大学)
9	戦後日本の国際スポーツ界復帰に関する永井松三の役割	平成24年10月	東海体育学会第60回大会 (於南山大学)
10	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会において日本が招待されなかった理由の 一考察 －A.ブランデー・コレクション史料の検討を中心に－	平成25年5月	体育史学会第2回大会 (於明治大学)
11	IOC公文書館の史料から見た1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の日本招待問題に関するエドストロームの見解	平成26年8月	日本体育学会第63回大会 (於立命館大学)
12	1948年第43回IOCロンドン総会の日本人出席問題に関する歴史的研究	平成27年5月	体育史学会第4回大会 (於神戸大学)
13	戦後日本のオリンピック・ムーブメント復帰問題におけるJohn Jewett Garlandの 役割 －マッカーサー記念館資料の検討を中心に－	平成27年11月	スポーツ史学会第29回大会 (於群馬大学)
14	戦後日本のNOC存在問題に関する一考察 －1950年IOCコペンハーゲン総会の議事録の検討を中心に－	平成28年8月	日本体育学会第67回大会 (於国士舘大学)
15	1948年IOCロンドン総会の日本人出席問題に関するイギリス外務省の見解	平成29年5月	体育史学会第6回大会 (於龍谷大学)
16	戦後日本の国際スポーツ界復帰に関するダグラス・マッカーサーの役割について	平成31年3月	平成30年度岡山体育学会研究発表会 (於吉備国際大学)
17	大谷武一のスポーツにおける教育的意義とフェアプレイ論 －大正期～昭和初期の文献の検討を中心に－	令和3年3月	令和2年度岡山体育学会研究発表会 (於岡山大学)Zoomでの発表

18	1948年第14回オリンピック・ロンドン大会の招待国決定の経緯に関する研究	令和5年6月	体育史学会第6回大会 (於北海道大学)
19	1949年の水泳のアメリカ遠征は何をもたらしたか:日本語新聞からの検討	令和6年8月	日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会 (於福岡大学)オンラインでの発表
20	戦後日本のオリンピック・ムーブメント復帰過程に関する国内の新聞報道	令和6年12月	スポーツ史学会第38回大会 (於早稲田大学)